

# おごせ 教育 Pick Up

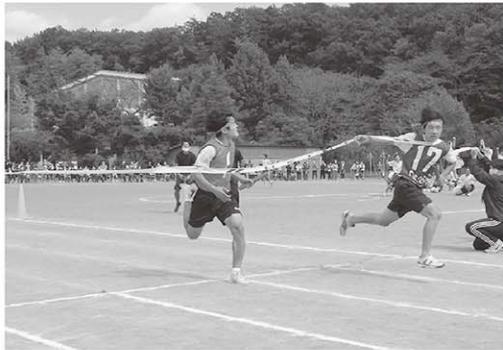
## 越生小学校



9月18日にスポーツ大会を開催しました。今年はコロナ禍での実施に伴い、低・中・高学年の部に分け全学年2種目の競技に取り組みました。赤組・青組ともに「友じょうふかめ しょうりをめざして つきすすめ」のスローガンの下、力を出しきった結果、同点で引き分けになりました。

## 梅園小学校

10月6日にサツマイモの収穫を行いました。臨時休校中の5月に植えたサツマイモの苗が大きく育ち、清々しい秋空の下で縦割り班ごとに土を掘りました。姿を現した大きなサツマイモやユニークな形をしたサツマイモにみんな大喜びでした。



## 越生中学校

10月7日、第74回体育祭（スポーツ大会）を開催しました。体育祭日和の中、「Power of Smile～歴史に刻め 勝利と絆～」をスローガンに3年生が1・2年生を牽引し、素晴らしい熱戦が繰り広げられました。



### おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。

ズームイン教育277

### 愛着形成と 子ども主体の 保育を大切に

越生保育園

健康な心と体が育まれるよう  
保育環境を整えています

0歳から2歳児は、日々の生活の中で「不安なときに信頼できる人に身を寄せ、心を落ち着かせること」で、安全感や安心感に浸り、生涯にわたる心身の健康とその後の生活の幸せに結びついていくといわれています。また、養育の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で、子どもたちの探索活動を見守られた子どもは、4歳から6歳には個性的で自主性のある子どもに育つていくともいわれています。

越生保育園は、笑顔とあいさつを合い言葉に一日が始まります。今日は、これをしようかな…。ブロックで作った

ロボットあそび！虫の観察！3歳から5歳児は、自分で考え、また友だちと話し合うなどして、その日その時に合わせたあそびを楽しんでいます。



保育士は子どもの小さな「できた」や「やってみたい」を、たくさん見つけて、子どもたちの安心できる場所として丁寧な保育を心がけています。そのため、子どもの要求に目を向けそれぞれ興味のあることに集中して過ごせる環境作りと時間を大事にしています。これからも、乳幼児期の大切な「あそび」や「いろいろなことを経験する日々の生活」の中で子どもたちの「主体性」や「思考力」を大切に充実した生活を送れる越生保育園を目指します。

# 越生浪漫

No. 141

八高線と越生線

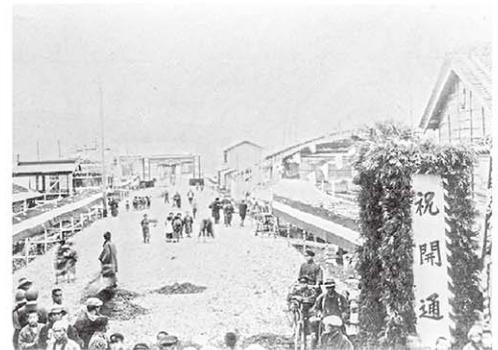


建設中の八高線越生駅『ふるさとの想い出写真集』

町の玄関口としてハイカーや観梅客を迎え、通勤通学者を長年支えてきた駅舎が「越生駅すてきな交流拠点」に生まれ変わろうとしています。町の発展に寄与してきた八高線・越生線の歩みをご紹介します。たいと思います。

## 八高線

大正5年(1916)、池袋―坂戸間の東上鉄道(現東



八高線開通に沸く越生駅前『ふるさとの想い出写真集』

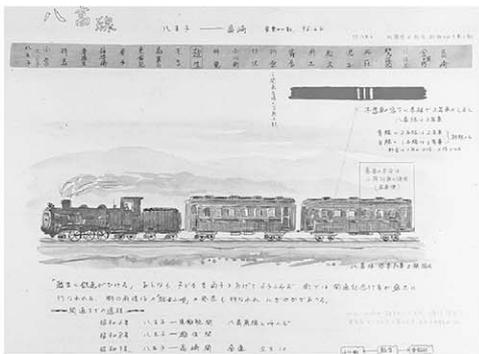
建設中の八高線越生駅『ふるさとの想い出写真集』

武東上線)が開通し、その恩恵を受けた市町村が賑わいを見せはじめた頃、当町にも鉄道を誘致しようと町長の高坂才治郎ほか24名によって「八王子、高崎間鉄道敷設の請願」が提出されました。衆議院での採択後国会で審議され、大正11年4月に公布された「鉄道敷設法」に、敷設予定線「東京府八王子ヨリ埼玉県飯能ヲ経テ群馬県高崎ニ至ル鉄道」として明記されました。沿線の八王子、拝島、箱根ヶ崎、飯能、毛呂、越生、明覚、玉川、大河、小川、竹沢、折原、寄居、児玉、藤岡、高崎の2市6町8ヶ村は、鉄道敷設の早期実現を目指し「八高線期成同盟会」を結成しま

す。活動の結果、八高線は「第一期建設予定線に編入され、第47議会で889万円余りの建設費予算も議決」されました(『新編埼玉県史 通史編6 近代2』)。しかしながら、翌年に発生した関東大震災の復興が最優先となり、八高線の建設は延期となりました。大正15年に測量を開始、昭和3年(1928)に、高崎側から伸びる北線と八王子側の南線それぞれの敷設工事が着工されました。

昭和8年4月15日、念願だった八王子―越生間(八高南線)が開通、越生駅が開業しました。1日8往復、客車と貨車を繋いだ混合列車が走り始めました。

活動の結果、八高線は「第一期建設予定線に編入され、第47議会で889万円余りの建設費予算も議決」されました(『新編埼玉県史 通史編6 近代2』)。しかしながら、翌年に発生した関東大震災の復興が最優先となり、八高線の建設は延期となりました。大正15年に測量を開始、昭和3年(1928)に、高崎側から伸びる北線と八王子側の南線それぞれの敷設工事が着工されました。



「越生に鉄道がひけた」(栗島昭二氏画)



八高線と越生線『ふるさとの想い出写真集』

## 越生線

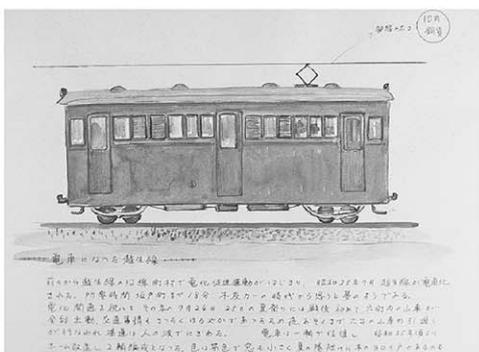
昭和3年9月28日、越生町本町の労働会館(至誠埼玉労働組合の会館)で、「越生鉄道株式会社」創立総会が開催されました。創立目的は東武東上線坂戸駅と越生を結ぶ路線の開通でした。本社を東武鉄道本社内に置き、取締役社長に東武鉄道専務取締役・吉野伝治氏が就任しました。役員には「鉄道王」根津嘉一郎をはじめ、越生と毛呂山の有力者が名を連ねています。

昭和7年、越生鉄道は東武鉄道から機関車や貨車、従業員を借りて坂戸―森戸間(廃駅)の貨物営業を開始、同9年12月16日には待望の坂戸―越生間が開通し、旅客営業を

開始するため1日9往復、新造の40人乗りガソリンカーが運転されました。

しかし戦時下のガソリン不足によって、数年後には車両は代燃化を余儀なくされてしまいます。さらに昭和19年12月、「不要不急線」に選定された東武越生線(同18年合併)は運行を休止し、車両や従業員は東武宇都宮線の西川田駅に移され、各地下工場への通勤輸送にあたりました。同20年12月1日に業務を再開、同25年7月23日には全線の電化が完了しました。

参考文獻  
新井良輔「越生鉄道ものがたり」『鉄道ピクトリアル263号』  
1972 鉄道図書刊行会



「電車になった越生線」(栗島昭二氏画)